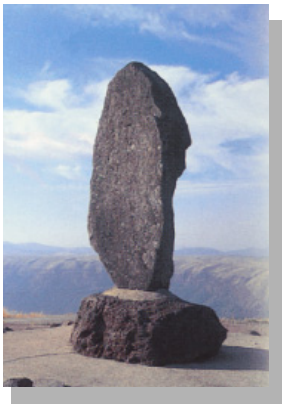
シリーズ阿蘇の文学碑めぐり①

阿蘇の雄大な大自然に魅せられ、昔から多くの文化人が訪れ、その足跡を残しています。数ある作品の中から、句碑・歌碑・文学碑等をシリーズで紹介します。

取材協力　中村道則氏



歌碑　吉井　勇…歌人・劇作家
歌碑所在地　大観峰
「大阿蘇の山の煙はおもしろし
空にのぼりて夏雲となる」＊自筆

●昭和１７年出版の歌随筆「雷」の中の「旅情編」(阿蘇山)の　冒頭に書かれており、五足の靴の旅で九州路を旅行した昔を偲んでいます。歌碑は昭和３３年に立石幸夫氏(検事正)、河﨑義夫氏(町長)、野上進氏(九州産交社長)、伊豆富人氏(熊日社長)が建立。

歌碑　吉井　勇…歌人・劇作家
歌碑所在地　内牧中央公園
「白秋もわれもしとゞに濡れにけり
山荒る、日の阿蘇のよな雨」

●歌集「天彦」の中の「阿蘇をおもふ」の阿蘇を題材にした十首のうちの一つ
甲斐博 書　建立者 不明

歌碑　与謝野　寛（鉄幹）…歌人
歌碑所在地　蘇山郷
「霧の色ひときは黒しかの空にありて煙るか阿蘇の頂」＊自筆
与謝野　晶子…歌人
「うす霧や大観峰によりそひて朝がほのさく阿蘇の山荘」＊自筆

●昭和７年８月１１日、与謝野寛・晶子夫妻と、娘の３人は、旧友松村辰喜氏(国立公園生みの親、内牧出身)の招きで、阿蘇を訪れ、内牧の永田氏宅(蘇山郷)に宿泊。短歌は夫妻がその時の滞在で残したもの。

歌碑は、夫婦の直筆を彫刻家の松原祥雲氏が彫る。昭和３４年永田珠一氏建立

また、次の短歌(掛け軸)も蘇山郷にあります。「大いなるひと木の杉を阿蘇に斫り君がつくれる萬年の家」寛　「いとひろく山の夕映え入りてきぬ阿蘇氏びとの軒たかき家」晶子　当時の与謝野氏の阿蘇での様子は、雑誌「冬柏(とうはく)」に詳しく書かれています。

☆明治後期に活躍した歌人・詩人５人『五足の靴』が阿蘇に来て今年でちょうど１００年☆

『明星(みょうじょう)』（明治後期、与謝野寛（鉄幹）の主宰する、新詩社の機関誌として創刊）はロマンチシズで、短歌の革新に貢献した雑誌です。この雑誌で最も活躍したのが若き北原白秋(きたはらはくしゅう)、木下杢太郎(もくたろう)、吉井勇(いさむ)、平野万里(ばんり)でした。鉄幹が、まだ学生だった４人を率(ひき)いて、長期旅行したのが、『五足の靴(ごそく)』の旅で、その後、これら若き詩人・歌人の開眼に大きな役割を果たしたと言われています。

『五足の靴』の旅とは…
明治40年7月28日から8月27日まで、九州西部中心に約１ヶ月旅した、５人（与謝野寛、北原白秋、木下杢太郎、吉井勇、平野万里）による紀行文です。その年の東京二六新聞に、５人が交互に執筆して、２９回にわたり連載。阿蘇のことは１８・１９回目にあります。詳しくは「五足の靴」をお読みください。

障害者用駐車場の適正利用啓発のためカラーコーンを設置しました

阿蘇地域振興局では、やさしいまちづくりの一環として、障害者用駐車場の適正利用への協力をお願いするカラーコーンを阿蘇市内の観光施設１０ヶ所（郡内３１ヶ所）に設置しました。車いすの方、松葉杖の方、妊婦さんなどは、車の乗り降りに広いスペースを必要とします。みなさまのご理解とご協力をお願いします。